

## サイクル23の回帰性擾乱について

## Recurrent disturbances of Cycle 23

# 亘 慎一 [1]; 北村 健太郎 [2]

# Shinichi Watari[1]; Kentarou Kitamura[2]

[1] 情通機構; [2] 徳山高専

[1] NICT; [2] TCT

コロナホールからの高速太陽風による地磁気擾乱は、太陽の自転周期である約27日で数周期繰り返すことが多い。27日の回帰性について  $K_p$  指数を使って自己相関解析を行うと太陽活動サイクルの下降期から極小期にかけての自己相関係数が高い期間と上昇期から極大期にかけての自己相関係数が小さくなる期間がはっきりとわかれることがわかった。また、サイクル23の下降期から極小期にかけてはこれまでのサイクルに比べて自己相関係数が高いことが分かった。回帰性の擾乱に伴って、深部帯電の原因となる静止軌道上の高エネルギー電子フラックスの増加が発生するが、2008年末くらいからあまり高エネルギー電子フラックスの増加が観測されなくなった。この原因についての解析結果について報告する。